

研究会報告

色彩教材研究会

主査

宇田川 千英子

'97年に60名足らずで発足した色彩教材研究会も4年目の春を迎え170名を越える大所帯となりました。昨年'99年度はこうした沢山の会員の皆様の暖かいご協力を得て、5回の教材実習講座を行い、日塗工標準見本帳をベースに類似色相面の色立体を作成したり、市販の扇風機で回転混色機を作ったりと、アットホーム且つユニークな会で色彩教育のレベル向上に努めることができた、講師・幹事一同確信しております。

また5月の全国大会では、過去に実施した実習講座の教材を一同に展示する機会にも恵まれました。まだまだ基礎教材ばかりではありましたが、広い壁面一面に整然と並んだ教材に、従事させて頂いた幹事一同、感激を新たにさせられました。沢山の関心やお褒めの言葉も頂き、大会後の反省会では「次回（大阪）大会でも展示できるよう、初心を忘れずに努力していこう。また、より多くの会員の方々に運営に参加して頂こう。」と、話し合いがもたれ、運営委員の増員や、遠隔地の会員への通信教育など、新たな活動の提案も成されました。

2000年を迎え、この3月からは日本色彩学会50周年記念に作成された「色彩の古典」の資料を基に新たな教材開発も進められており、4回のシリーズで古典書解説教材作成講座が行われます。会員の方々のご支援の基、今年度も実り多い研究活動が続けられるよう、心から願っています。

研究会報告

色覚研究会

幹事

市原 恭代

第1回色覚研究会 報告

第1回色彩研究会の会合は1999年7月10日午前10時より12時まで慈恵会医大南講堂にて開催された。当日の参加者は16名。当日都合がつかず出席できなかった入会希望者を含めると23名であった。今後も会員は募集していく予定である。当日は北原健二主査より発足についての挨拶があり、出席者全員の自己紹介と色覚に関する考え方、問題意識、研究内容など多岐にわたる応答がなされた。医療関係、色彩心理、メーカーの色彩関係、色彩環境、デザイン・美術関係、住居・インテリア、色彩教育、福祉関係、カラーコーディネイターなどそれぞれの領域から色覚に深い関心を寄せる方々の参加があり、各方面からの様々な問題提起がなされた。当面は活動内容として、テーマを絞って色覚問題を多方向から考察していくこと、色覚への理解・知識のレベルアップを目的とした情報交換、また、講師を招いての講演会や色覚研究のシンポジウムを開催していきたい旨の提案がなされた。

第2回色覚研究会 講演会

1999年10月30日（土）13:00-16:00宝仙学園短期大学4号館多目的ホールにて開催された。当初、研究会会員のみを対象としていたが、読売新聞1999年10月28日朝刊に「お年寄りに優しい色の気配り」の記事で報道されたため会員36名、非会員46名の計82名の参加となった。以下の2講演が行われた。

- 1 岡嶋 克典（防衛大学校）高齢者の色覚について
- 2 仲泊 聡（神奈川リハビリテーション病院）
大脳の色情報処理機構

また、講演終了後、色覚研究会会員で今後の活動計画・情報交換会が行われ、

- ・色覚研究会シンポジウムの計画
- ・色覚論文のデータベース、最新研究のレビュー
- ・色覚研究と文部省科研費申請

・社会問題としての色覚問題

などが話し合われた。色覚研究会内に研究者を組織し、文部省科学研究費 特定領域研究の研究領域として、基盤研究C企画調査に「色覚と色彩環境」を申請することとなった。また、平成12年度の色覚シンポジウムの開催を予定し、文部省科学研究費 研究成果公開発表Bへの申請を色彩学会より行った。

委員会報告

出版委員会

委員長

鈴木 恒男

朝倉書店から刊行する色彩科学講座の企画及び編集を行い、以下の7巻を決定

- 第1巻 カラーサイエンス
- 第2巻 カラーテクノロジー
- 第3巻 カラービジョン
- 第4巻 カラーイメージング
- 第5巻 カラーメディア
- 第6巻 カラーインライフ
- 第7巻 カラーデザイン

今秋以降第1巻から順次出版の準備が整った。

この企画が終了予定なので、色彩学会として編集及び企画を行う次の企画を検討中、平成12年度から進行の予定。

委員会報告

色彩学カリキュラム委員会

委員長

鈴木 恒男

色彩学の新しい流れに対応し、色彩学とは何か、現在何が求められているのかを明確にする為に、色彩学のカリキュラムの再構築を行うことを目的に設立された委員会である。

本年度の主な活動は現在大学及び短期大学で色彩学としてどのような内容が教えられているのかを全国182校にアンケート調査を行い、137校（75%の回収率）から現在教えられている科目名、教員名、どのような項目が教えられているのかの解答が得られた。

このデータを基に、現在色彩学を教えている大学及び短期大学一覧、及びどのような項目が教えられているのかの基礎資料が作成された。この資料から色彩学全体の枠組みと、各色彩学を構成する要素では何を教えるのかの色彩学カリキュラム第1案を作成。此の第1案を色彩学会の会員で色彩学の指導的立場にある50名を対象に書面による検討を行っている。

この途中経過はカラーフォーラムJAPAN'99で発表し、5月の色彩学会全国大会でも発表した。

来年度は色彩学カリキュラム最終案を作成し、色々な媒体を通じて会員の皆様の意見を集め、この案を改編し、より充実したものにする予定である。